



ラオス・クリーン農業開発プロジェクト

クリーン農業ニュースレター

第15号 2021年6月発行



このプロジェクトは5年間（2017-2022）の JICA による技術協力プロジェクトで、首都ビエンチャン、ルアンパバーン県、サイヤブリ県及びシェンクワン県の4つのパイロット県を対象としています。プロジェクトは、パイロット県における市場ニーズに基づくクリーン農業（有機農業及び GAP）の推進を目的として活動しています。

最近のトピックス

1. 首都ビエンチャンのロックダウンとその対応

世界的に COVID19 の感染が広がる中、ラオスでは 2021 年 4 月 20 日までの累積感染者が 60 名と大きな感染は見られませんでした。しかしながら、その後全国において市中感染が急速に広がり、6 月 20 日までの累積感染者が 2,053 名となりました。このような状況下で首都ビエンチャンの往来封鎖（ロックダウン）がラオス政府より指示されました。当初 4 月 22 日から 5 月 5 日までの予定でしたが、これまで 4 度の延長指示が出て、4 度目は 7 月 4 日まで期間が延長されています。

プロジェクトでは、シェンクワン県及びルアンパバーン県に出張していたクリーン農業基準センター（CASC）の職員、日本人専門家、及びプロジェクトスタッフの予定を切り上げて、4 月 22 日に首都ビエンチャンに戻る措置を行いました。その後、ラオス政府並びに JICA ラオス事務所の指示に従い、日本人専門家を含めたプロジェクトスタッフは在宅勤務を行いました。



（写真）規制が次第に緩和されて活気を取り戻しつつある

6 月 14 日の首都ビエンチャンの様子

また、以下に紹介するように 4 月には 2 名の日本人短期専門家が派遣され、活動を展開する予定でしたが、ロックダウンの影響で計画を大きく変更する

必要が出てきました。短期専門家の活動も含めて、大きな制限がある中でプロジェクトでは、OA マーケットを訪問して情報収集を行ったり、Zoom や Skype を活用してオンライン会議で関係者との意見交換を行ったりする等の活動を行いました。

2. 短期専門家紹介①+オンライン研修会の実施



新田専門家

土壌管理短期専門家の新田直人です。ラオスは 5 度目の赴任ですが、今回は異例続きです。到着後 2 週間の自己隔離、その直後からのロックダウンとその延長の繰り返しだからです。当初は、対象地域を訪問

して圃場の土壌や周囲の状況を観察し、土壌管理、特に堆肥作成について具体的な改善提案を行う予定でした。が、外出できません。そこで、オンライン研修会を行いました。

研修会は、私がモニター越しに 4 県の受講者 13 名に話しかけ、共同ホスト 3 名と通訳の方に補佐してもらうことにしました。



（写真）オンライン研修会の様子

6 月 2 日朝、研修会の開幕です。まずは明るく元気に「サバイディー」、この一声で受講者を引き付けます。オンラインでは受講者の表情を細かく観察することが難しいので、内容を絞り、多めに質問を投

げかけて双方向発信を心掛け、頻回に休憩を入れました。堆肥を知っていますか？と尋ねると、彼らの堆肥は牛糞ぼかし肥料と分かりました。それからは、「私たちの堆肥は少し違う、土を良くする腐植堆肥」と繰り返して理解を促しました。初日の参加者は14名、二日目はなぜか23名、大成功でした。

3. 短期専門家紹介②+OA マーケットの現状・印象



仙道専門家

プロジェクトに短期専門家として派遣された仙道です。今回の業務では、C/P や OA グループとともに有機野菜の生産計画や OA グループと流通業者が新規の農産物取引を支援する活動を行っています。

ITECC (International Trade Exhibition and Convention Center) OA マーケットは首都ビエンチャンにある有機農産物市場で最大規模を誇ります。雨季直前の5月に訪問した際は、多くの店舗で葉菜、果菜、根菜に果物と数十種類もの有機農産物が販売されていました。しかし、ラオスの雨季は高温で多雨な環境のため、OA グループが生産・販売できる農産物が限定されるという課題があります。これは OA グループや流通業者への聞き取り調査でも明らか

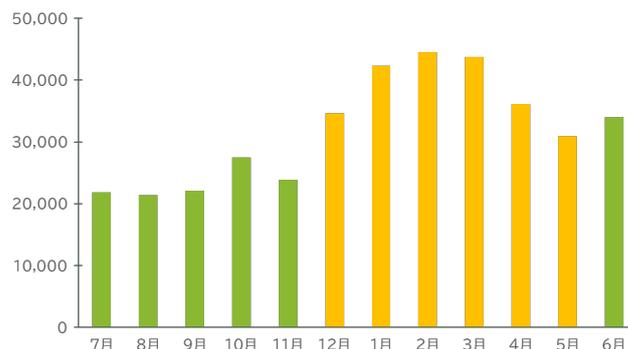


(写真) OA マーケットでの情報収集の様子

になっており、農家の収益性改善や雨季の市場ニーズに寄与するために生産計画が求められています。実際に雨季における有機野菜供給量は約 22,000 kg/月と半分ほどで、乾季のピークである約 45,000 kg/月と比較して半減している状況 (右上図)。これらの課題解決の一助とするため、残りの業務期間では OA グループを対象に有機野菜生産計画に係る研修、流通業者のビジネスアイデアを首都ビエンチャ

ン OA 委員会や OA グループに共有する場を設け、有機農産物の生産・販売を促進するワークショップの実施を予定しています。

有機農産物の月別供給量
(ビエンチャン ITECC OAマーケット (2018年7月~2019年6月))



4. プロジェクト HP 及び Facebook の紹介

ホームページ (HP) と Facebook を通じて、プロジェクトは情報発信を行っています。HP には英語版と日本語版があり、過去のニュースレターがラオス語 (英語版の HP で閲覧可能)、英語、日本語で閲覧できます。リンク先は以下の通りです。

英語版 : <https://www.jica.go.jp/project/english/laos/026/index.html>

日本語版 : <https://www.jica.go.jp/project/laos/026/index.html>

Facebook は 2021 年に開設したばかりで、まだ投稿数は少ないですが、今後動画を中心に更新していく予定です。リンク先は以下の通りです。

<https://www.facebook.com/jicaCADP>

プロジェクトの関係機関、例えば、CASC、サイヤブリ県農林局、あるいは首都ビエンチャン、シエンクワン、ルアンパバーンの OA グループ等も自身の Facebook ページから情報発信を行っています。これらの関係機関と連携をとって引き続き、ラオスのクリーン農業を振興するための情報発信を行っていく予定です。



CADP - Clean Agriculture Development Project
@jicaCADP - 農業

メッセージを送信

(写真) プロジェクト Facebook のトップページ

発行元 : JICA クリーン農業開発プロジェクト

Clean Agriculture Development Project (CADP)

Email : cadp.lao.info2@gmail.com

Tel : +856-21 417 681



もっとクリーン農産物を食べよう!

